柏崎常盤高等学校図書館　令和５年６月号

図書館だより

令和５年６月１日発行

新着図書の紹介

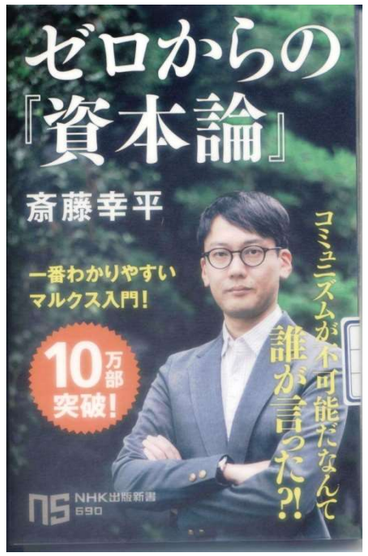
●『世界史を俯瞰して、思い込みから自分を解放する　歴史思考』

深井 龍之介/著　　ダイヤモンド社

著者は歴史をデータベース化し、誰でもアクセスできるようにしようと会社を立ち上げ、ポッドキャストや、ユーチューブで「歴史を面白く学ぶコテンラジオ（COTENRADIO）」という番組を配信している。その番組に寄せられる感想で多いのが、「悩みから解放された」「気持ちが楽になった」というものらしい。歴史を学ぶことで、なぜ悩みから解放されるのか。それは、私たちが思い込んでいる「当たり前」が、歴史を学ぶことで「当たり前じゃない」と分かるからだ。

例えば、同性を好きになって悩んでいる人が、織田信長や武田信玄や徳川家光も男性と性的関係にあったことが分かれば、少し気が楽になるかもしれない。そして、「異性愛が当たり前」という価値観が、明治維新後に西洋から持ち込まれたキリスト教に基づくものだと分かれば、現状に少しは納得できるし、それを変えることに希望を見出せるかもしれない。歴史ってけっこう使えるのだ。

●『ゼロからの『資本論』』　　斎藤 幸平/著　　ＮＨＫ出版新書



価値観が多様化し変化の速い現代社会では、未来を予測するのは困難で、自分はどのような人生を歩めば良いのかと選択に迷う人は多いだろう。だが、社会の大きな変化は過去にもあった。産業革命、フランス革命、明治維新、世界大戦などなど…。その時、格差や搾取、戦争や暴力、植民地支配や奴隷制などの問題に向き合い、国家の暴力に抗いながら自由や平等の可能性を必死に考えようとした思想家たちがいた。彼らの知恵と想像力から学ぶことが今こそ求められていると著者は言う。

150 年前に書かれたマルクスの『資本論』はかなり難解だが、本書はマルクスの思考の道筋を私たちにやさしく教えてくれる。

●『恋とそれとあと全部』　　住野 よる/著　　文藝春秋

片想い男子と、ちょっと気にしすぎな女子。二人は友達だけど、違う生き物。一緒に過ごす、夏の特別な四日間。無敵の青春小説家デビュー十作目。

●『冒険の書　ＡＩ時代のアンラーニング』　　孫 泰蔵/著　日経ＢＰ

著者は、世界中の人工知能（ＡＩ）を開発している会社にたくさん関わっている起業家だ。ある時、「学びって本来はすごく楽しいことのはずなのに、どうして学校の勉強はつまらないのだろう？人生は本来すごくワクワクするもののはずなのに、どうしていつも不安を感じながら生きていかなければならないのだろう？」という疑問が湧き、その答えを求めて探究の旅に出る。この本はその旅路の記録だ。

同じ疑問を持っている人のために、結論よりも、著者がどんな問いを立てたのか、どんな探究をしたのか、というプロセスそのものが詳しく書かれている。

「なんでこんな勉強しなきゃなんないの？」って思ったことありませんか？

●『ソーシャルジャスティス　小児精神科医、社会を診る』

内田 舞/著　　文春新書

著者はアメリカ在住の小児精神科医で、ハーバード大学医学部准教授。第三子を妊娠中の 2021 年 1 月初旬に新型コロナワクチンを接種した。表紙の写真はその直後に撮影したものだ。

お腹の大きな著者がワクチンを接種した写真を、彼女の勤務先の病院がＳＮＳに投稿すると、まだ新型コロナワクチンが承認されていなかった日本のメディアから問い合わせが殺到した。そこで、メディアからの取材対応や行政機関への講義、ＳＮＳのライブ配信といった啓発活動を行う。その活動は医療啓発活動に授けられる賞の最優秀賞を受賞する。

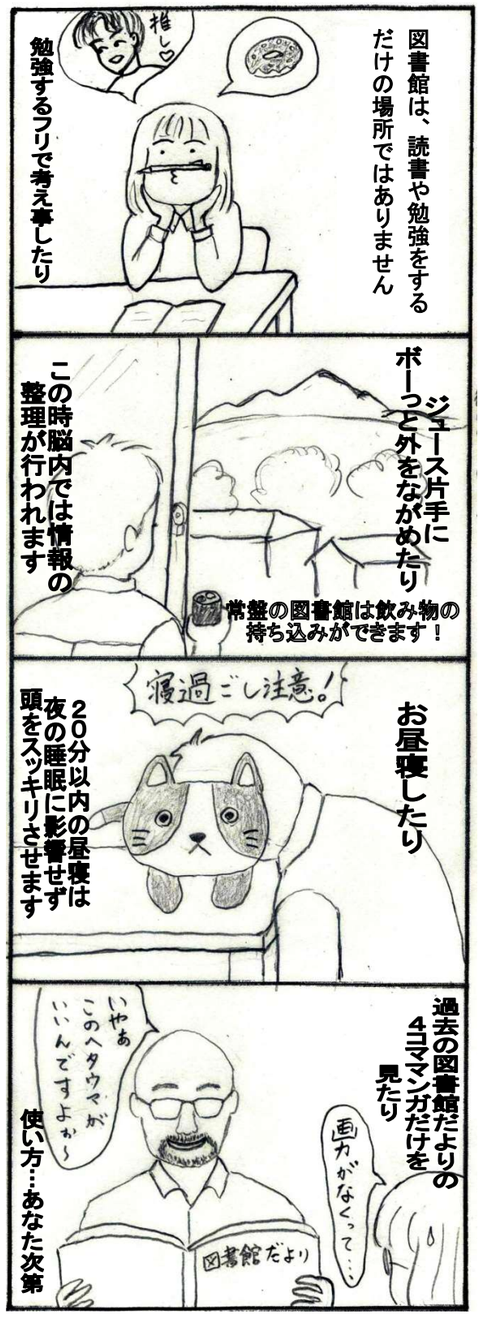
そして、啓発活動を続ける中で数々の誹謗中傷に直面する。ＳＮＳ上での批判は数千件にもおよび、「死産報告書」と書かれたメッセージも届いた。

根拠のない不安や「健康な子を産まなくては」というプレッシャーに晒された経験から、「どうしたら炎上や分断を超えられるのか」と考えた。答えは容易には出ないが、精神科医としての知見や日々の経験からそのヒントを紹介したのが本書だ。

ある日図書館で

その１３　来館者がヤバい

作・絵：内山 裕子（司書）



●『独裁体制から民主主義へ　権力に対抗するための教科書』

ジーン・シャープ/著　　瀧口範子/訳　　ちくま学芸文庫

「自由を奪われ、苦しんでいる人々をどうにかしなければ」という思いから、著者は、独裁体制をどうやって防ぎ、打倒することができるかということに関心を持つ。史上数々の独裁体制を緻密に分析・研究した結果、「政治的な力の源はすべて、民衆側が政権を受け入れ、降伏し、従順することによっており、また社会の無数の人々や多機関の協力によって成り立っている」と著者は言う。つまり、民衆自身の選択によって成立しているというのだ。それなら、選択し直すことは可能なはずだ。

巻末には「非暴力的行動 198 の方法」が記されているが、これは歴史の中で実際に用いられた方法から著者が拾い上げ、検証してきたものだ。そして、本書は「アラブの春」や東欧諸国などの様々な抵抗運動の渦中で人々に教科書として読まれてきた実践の書でもある。

●『やっかいな問題はみんなで解く』

堂目 卓生・山崎 吾郎/編　　世界思想社

私たちの暮らす社会は、簡単には解決できない問題であふれている。地球温暖化や環境破壊、差別やいじめ、紛争や災害など、挙げればきりがない。こんな世の中に生まれてくるのはかわいそうだと、子どもを持たないことを選択する人もいるらしい。しかし、そんなにお先真っ暗なのだろうか。多くの先人たちがより良い社会にするために尽力してきた。解決できた問題も多い。

本書では、学問分野や立場の違いを乗り越え、様々な知識や意見、価値観をもった人々がコミュニケーションをとり、相互に共感し、それぞれの意識と行動を変容させながら、課題解決の意味を共有し、心を一つにして解決の仕組みや方策を生み出していくことを目指した。簡単には解決できないという「やっかいさ」を引き受け、辛抱強く社会課題に向き合い、解決への道を探る挑戦の書だ。

『朝日キーワード 2024』
朝日新聞出版/編
朝日新聞出版

ネットでは読めない重要ニュースの「本質」。入試小論文、就職試験対策に！

『地図と拳』
小川 哲/著　集英社

日露戦争前夜から第２次大戦までの半世紀、満州の名も無い都市で繰り広げられる知略と殺戮。第168回直木賞受賞作。

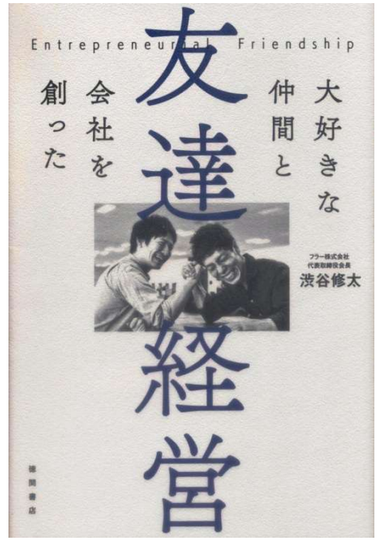
寄贈図書の紹介

●『友達経営　大好きな仲間と会社を創った』

渋谷 修太/著　　徳間書店

著者は新潟県出身、長岡高専から筑波大学へ進み、就職を経て、「フラー株式会社」を創業する。長岡高専時代、5 年間の寮生活はあまりに楽しく、この時間が一生続いてほしいと思うが、卒業はせまってくる。「これからもずっとみんなと一緒にいるためにはどうすればいいだろう？」と考え、「この大好きな仲間たちを集めて、会社を創り、一緒に働けばいいんだ！」と 18 歳の頃には将来起業することを決意する。

この本は友達経営のノウハウではなく、リアルな友達経営のプロセスを詳細に描くことに重きを置いている。起業の参考になるだけでなく、どうすれば会社にイノベーションやワクワクが生まれるのかということも教えてくれる。



『小説は書き直される—創作のバックヤード』
日本近代文学館/編
秀明大学出版会

あの名作が書かれたプロセスやその後変容していく様を徹底解説！

『新潟県木崎村小作争議：百年目の真実』
玉 真之介/著　　北方新社

百年前、北蒲原郡木崎村（現・新潟市北区）で小作農民たちが生活の向上を求めて争議を起こした。その真実に鋭く迫った書。

その他の寄贈図書

	タイトル	著者名	出版社	分類記号
1	環境とエントロピーの経済学 —宇宙人としての人間の視点から—	藤堂 史明	新潟日報事業社	080 フ 72
2	未来を歩くためのスキル —AI時代に求められる意思決定力—	田中 一裕	新潟日報事業社	080 フ 73
3	地方税財政法入門 —地方税財政の現状と課題—	今本 啓介	新潟日報事業社	080 フ 74
4	少子化問題の経済学 —生きづらい社会で出生率は低下する—	溝口 由己	新潟日報事業社	080 フ 75
5	学校の安全・地域の安心 ～地域学校協働活動と生涯学習が守る～	雲尾 周	新潟日報事業社	080 フ 76
6	再生可能エネルギーによる持続可能なコミュニティへの市民の挑戦 —「おらってにいがた市民エネルギー協議会」の活動をめぐって	渡邊 登	新潟日報事業社	080 フ 77
7	書画文芸でたどる新潟文化点描	岡村 浩	新潟日報事業社	080 フ 78